慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	堀江博士著 国際経済と国民経済
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.11 (1922. 11) ,p.1628(128)- 1631(131)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221101-0128

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の中に靈の王國を求めんとする情切なるに際して、本書は確かに我等の心の窓を靜かに開かしむる思索的鍵なることを信ずるものである。

（阿部秀助）

堀江博士著「國際經濟と國民經濟」

四六版三百〇九頁
定價金一圓九十錢
岩波書店發行

本書は堀江博士が大正十一年夏帝國教育會青森市十日會秋田縣平鹿郡教育會等に於て試られたる講演を骨子とし、之に同年三月から九月に至る半年間に發表せられた論文を加へて一冊となされ、昨年十二月公にせられた「世界の經濟は如何に動くか」、及び本年四月公にせられた「續編世界の經濟は如何に動くか」と相承けて國際經濟の狀況を明かにする爲め今回公にせられたるものであつて、其内容はゼノア會議の前後から最近に至るまでの間に於ける世界經濟變動の狀況及其間に在りて我國民經濟が如何なる徑路を辿りたるか其說明、評論等であつて、目次に從つて其要目を列擧すれば「世界平和と國民經濟並に國際經濟」、「世界經濟上より見たるゼノア會議」、「對外債務癈棄問題」、「歐洲經濟復興問題」、「世界平和と對支經濟政策」、「歐洲戰後の銀行問題、其一英國に於ける銀行合同、其二銀行と政權」、「我國經濟政策の刷新」、「不景氣と國民經濟」――其一我國に不景氣の續く所以、其二我國の物價問題」、「經濟政策上の退嬰と進取」、「我國民の租稅道德」等である。

就中第一章は全體の基調であり要たるものであつて、博士が如何なる態度を持せらるゝかは茲で大體之を窺ひ知り得るのである。そこで其極く大體を述べて見ると、博士は戰爭の傷痍大なりと云ふに筆を起して歐洲戰爭が交戰諸國に負はしめたる費用は直接戰費のみにても千八百六十二億三千三百六十三萬七千弗の巨額に上り、之を支辨するには大部分公債發行の方法に依つたのであるが其公債發行の容易に行はれたのは又た中央銀行をして通貨の增發をなさしめたと云ふが如き手段が採られた爲めであると云ふ事實を指摘し、而も「斯の如く交戰諸國の政府が公債に對する應募を容易ならしめる爲めに、正貨兌換の禁じられた銀行券なり、又は此銀行券を以つて、兌換される政府紙幣を增發する方針を取つたことは、必然の結果として、通貨制度を破壞し、通貨價値の低落を惹起し、國民生活に大なる動搖を生ずるに至つた」と說き、次に「斯る財政とか金融とか云ふような局限された方面の問題から離れて國民經濟の全體に戰爭の及ぼした影響を考へると（一）資本並に勞働を生産業から奪つて不生産若しくは生産破壞の用に就かせた結果、富の減少を來し、（二）國際間に於ける交易並に交通の自由を束縛し、一國の經濟をして國と云ふ狹い領域の下に蹐蹐せしめ、戰後に於ても對外企業や對外放資は戰前に比較して不利益なる地位に居り、（三）戰時國際間に於ける經濟的交通の不自由に爲つたことは自然一國の經濟生活をして國内自給主義に傾かせ、自國に於て生産條件の不利であることの明瞭であるに拘はらず、尙ほ斯る事業に自國の資本を投入させ（四）戰後外國との交通の恢復するように爲つた今日、斯る代用的事業が外國の競爭を受けて存立上に困難を告げるような場合に差迫ると、關稅其他の保護手段に依つて斯る生産條件の不利なる事業を一國に存續せしめようとし、（五）戰時經濟社會に起つた不公正なる富の分配殊に一部階級の間に行はれた富の不公平なる領有は社會に不健全なる消費を奬勵し、戰後の今日に至つて、尙ほ此種の流弊の杜絶されざることの諸點は即ち戰爭に伴ふ經濟的害惡として、今日に於ては、何人と雖も、之を承認せざるを得ないであらう」とし、此處に戰爭の經濟的利益を假想して戰爭辯護論を試むる者の妄を痛擊し、「最後に戰爭の經濟的患害として私の指摘する所のものは經濟社會に無用無意義の波瀾を惹起するに至ることである」として戰時中に通貨膨脹の爲めに生ずる一時幻影的に生ずる好景氣が其終熄と共に大なる反動を現はし非

當なる不景氣に陷るの事實を指摘せられて居る。而して戰爭の生める是等幾多の痛手でこそ軈て現時に於て平和論の旺盛なる所以であると、なさるゝと共に、實際平和運動の不十分不徹底なるを慨せられ、其見地より諸國が未だ盡さゞる點を指摘して、第一「海軍が華聖頓會議の決議に據つて縮少され、續いて海軍休日の行はれる以上は陸軍も亦た當然縮少されなければならぬ譯である」。「然るに今日列國の內に平和主義に就くと稱しながら遙に護國の必要に超越する程度の陸軍を擁して平然たるものあるは」如何。

第二、「既に列國が世界平和を理想とし、之を實現することに終始する以上は、經濟政策上にも大なる變化を生ず可き道理である」。即ち「列國は互に自他の腹中に飛入つて、出來得る限り相倚り、相助けて其間に國際經濟共通の實を擧け可き道理である」。然かも列國の爲す所は殆んど反對の方向に向つて居るの狀あるは如何。

第三、「從來世界を通じて强國の間に經濟的帝國主義の行はれて已まなかつたのは資本主義の政扈之を然らしめたのである」「然らば世界平和を永遠に維持しようとか、又は其確立を謀らうとかする場合には、吾人は其根本的政策として、資本主義を基礎とする從來の經濟組織に或る制限を加へることを以て急務であると考へざるを得ない」。然るに此方面に於ける努力に見る可きものなきは此は是れ畫龍點睛の功を缺くものであらう。

第四、「列國が世界平和の維持されることを希望し又各國協力して其維持に資しようとする以上は、一方に世界の諸國を擧げて一の經濟單位とする位に、經濟共通の道を開く他の一方には、國に依り、人種に依り經濟上の關係に於て一切の差別的待遇なからしむることを必要とする」然かも白晳人種の黃色人種に對する、英國の印度に對する否更には聯合國の獨逸に對し、露西亞に對する其諸々の態度の如きは決して如上の趣意に合するものではない。畢竟一國と云ふ狹き殼を脫して廣く人類を愛すと云ふ精神に缺けて居るが爲めであるとせられ、斯くて最後に左の如く結論されて居る。

「人間的愛情を以つて現在の經濟的關係を律することは、世界平和を永遠に維持する所以と爲るものであつて、此點に於て缺くる所があつたならば世界平和を維持することの如き遂に一片の空想に歸せざるを得ない。內に資本主義が跋扈して資本の力を以つて勞働を虐げる、外に經濟的帝國主義が行はれ一國の資本的勢力は他國に迫つて其國の國民を何處までも未開國民扱にして、其勞働を奪取すると云ふが如き、何としても人類愛の精神に缺けた所業であつて、此點に顧みる所がなかつたならば、國際間の條約や協定で維持される世界平和の如き畢竟表面を飾る道具たるに過ぎず、何時其內部に大なる龜裂を生ずるか測り知るを得ない。吾人は斯る狀態を以つて、滿足するものではない。如何にして人類愛を以つて經濟的關係を律するか、又如何にしたならば、經濟上の方面から、人類愛を發揮せしめ得るに至るであらうか、此二點は今後吾人の深く思を致す可き所である。」

即ち軈て堀江博士の立脚地をなすものであるが博士は果して此高所大局より如何に前記の諸問題を論究せらるゝのであるか？此問に答ふるには單なる紹介以上に歩み入らざるを得ないからして今は吾人に於て之を敢てせずとして、讀者自らが博士の此著に就て親しく討究せらるゝことを深く希望する。評者は唯其自己に益する所甚だ大なるものありたるを茲に附言し置くに止めんとす。

（三邊金藏）

慶應義塾大學　**經濟思潮講演集**

菊版四四〇頁
定價貳圓
岩波書店發行

慶應義塾大學經濟思潮講演集は大正十年八月一日より八日間に亘り慶應義塾大學講堂において開催せる經濟思潮講演會の節記錄を收めたもので、收むる所

氣賀勘重教授　總論及自由主義
小泉信三教授　科學的社會主義